

ブラジル留学中間報告書（12月）

2018年12月

国際農業開発学科 江村藍弓

ブラジルの留学生活も三分の一が終わろうとしています。こちらでの生活の基盤も整いながら、新しいことを始めたり、少し一歩踏み出していけたりするようになったと感じます。

勉強の方も、学期は終わりましたが、研究室の院生の手伝いで、いま住んでいるピラシカバから車で8時間くらいかけた田舎での森林調査に行ったりと、とても充実させていただいております。その調査では現地の農家さんのお宅に泊らせていただいたのですが、今まで日系の農家さんしかブラジルでは知らなかったため、とても新鮮でした。インターネットの接続がないような地域でしたので、人のあたたかさや自然に触れることができとても良い経験でした。

少しこちらでの土地勘もついてきたと感じたので、日本人4人でサンパウロからバスで3時間ほどのところにある、ドイツ系移民が築き上げた **Campos do Jordan** という街へ観光しに行きました。そこではヨーロッパ風の街並みがあり食べ物がとても美味しく、このように移民で成り立つ街はほかにもたくさんあることから、ブラジルという国はまさに移民が作り上げた国といえると感じました。時間とお金がかかるため、まだそれほど多くの旅行はできていませんが、農大会館での用事など、サンパウロにはよく行きます。サンパウロにはメトロがあり、一律4レアルととても安く便利なのでよく利用しますが、駅によっては治安が悪く注意が必要な駅もあるので、気を緩めないようにしたいです。

ESALQの城田先生には大変お世話になっております。私たち日本人のことを気にかけてくださり、先生のお宅で日本食を作ったり、レストランでお昼ご飯を食べたりと、授業以外でも交流を続けられていることはとてもうれしいです。

12月上旬に、私は家を引っ越しました。以前住んでいたのはヘプブリカですが、諸事情により、学校から近くヘプブリカではない三人ほどで暮らす家に引っ越しました。新しい家の周りはとても静かで落ち着いていてとてもいい環境です。しかし、ヘプブリカに住んでいたおかげでブラジルの学生の生活などを知ることができましたし、今回の家と合わせて、二つの側面を知ることができるのはとても良いことだと感じています。ヘプブリカではよくシュハスコを行います。私が参加しただけでも、寮のOGと住民が集まるシュハスコや住民の家族が集まるシュハスコがありました。シュハスコはいわゆるバーベキューですが、日本のそれとは異なり、日本にあるシュハスコ料理店のそれともまた別のもので、とても肉厚でジューシーです。

私には、祖母のいとことその家族という少し遠い親戚がサンパウロにいます。一年前に展開力の短期留学で来たときには会うことができなかったのですが、連絡を取ってようやく

会えることになり、11月に会ってきました。彼らは日系ブラジル人で育った環境も言語も違いますが、家族のように迎え入れてくださり、もう一つの居場所ができたようなそんな気持ちでした。彼らの中にも日系ではないブラジル人と結婚し子どもがいる人もいます。少しずつ日本の血が薄れていき、ブラジルに日本人が移住してきたことや日本の文化が忘れられてしまうことを考えるとすこし悲しくなります。ESALQにも日系の学生が多くいて、日本に興味がある人もいれば全く興味のないような人もいます。9月の23日（日本の秋分の日）にピラシカバで **Festa da Primavera** という名前の太鼓や柔道、合気道をステージで披露するという祭りがありました。周りには焼きそばや天ぷらを売るお店があり、このように日本のものを大事にして好んでいてくれる人たちが多くいるということに感動したのを覚えています。

ブラジル人のあたたかさや情の深さは日々感じております。また、ブラジル人は家族、特に母親を大切にします。それはとても素晴らしく、私のような家族のいない留学生にもとても親切ですし、まるで家族のように迎え入れてくれます。これはブラジルという国が移民で成り立った国で、外国人に優しい国ということを表していると感じます。電車やバス、ショッピングセンターに行っても人々の肌の色や髪の毛の色の違いがよくわかります。

ブラジルは年間を通して国を挙げての祝日やイベントが多くあります。私が今まで体験した中でも一週間程度の休みが二回あり、9月7日には **Independencia do Brasil** というブラジルの独立記念日がありました。ESALQ の設立記念日を挟んでの祝日もありましたし、特に11月は祝日が多くありました。これからクリスマスやニューイヤー、カーニバルもあります。一年間を過ごすことができる特権を活かして、ブラジルという国を思いっきり感じることができるのはとてもうれしいことです。

12月9日には農大会館で忘年会がありました。今まで知り合ったOBの方々や、初めてお知り合いになれたOBの方々とお話することができ、留学生生活を改めて見直し、士気を高めることができたと思います。こういった機会があることは良いことだと思いますし、大切にしていきたいです。いつもお世話になっている農大会館のみなさんや国際協力センター、展開力のみなさんには感謝を申し上げます。これからも頑張りますのでよろしく願いいたします。



図 1 : Republica のみんなと



図 2 : 調査地の Cananeia にて調査に出かける様子